

飼料イネ新品种「たちすずか」で乳量アップ



～広島生まれの画期的品種「たちすずか」の実力～

連携機関 | (独)近畿中国四国農業研究センター

研究期間 | 平成21～24年度 [県費研究(開発研究)], 平成23～24年度[競争的資金]

研究開発のきっかけ

- ◆ 広島県では平成12年から転作田を活用した耕畜連携による飼料イネの生産利用を推進しています。
- ◆ 飼料自給率向上に向けた共同研究の中で、(独)近畿中国四国農業研究センターが育種した新品种「たちすずか」の飼料特性の評価と乳牛への給与効果を全国に先駆けて検討しました。

研究成果の概要

- ◆ 飼料の成分分析や消化吸収を評価し、「たちすずか」の3つの優れた特長を明らかにしました。
 - ①糖含量が従来品種の2～3倍 : 豊富な糖により良質な発酵飼料づくりが可能！
 - ②繊維の消化が良い : 消化しにくい「リグニン」が少なく、消化が良い！
 - ③栄養価は1.1～1.4倍 : 消化できず栄養とならないモミの割合が少なく、高栄養！
- ◆ 乳牛に「たちすずか」を与えると、牛乳生産量は従来品種「クサノホシ」より1頭当たり2.7ℓ/1日増加(7%増)しました(図1)。

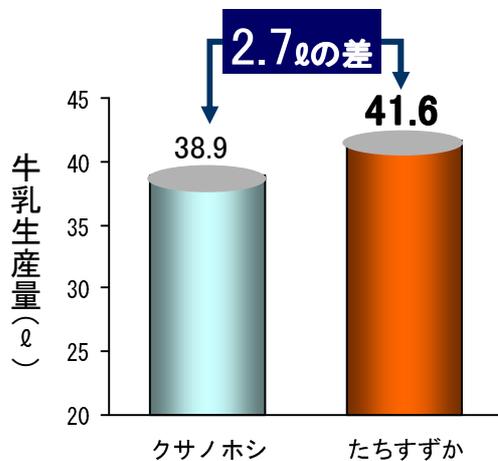


図1 牛乳生産量(1日1頭当たり)

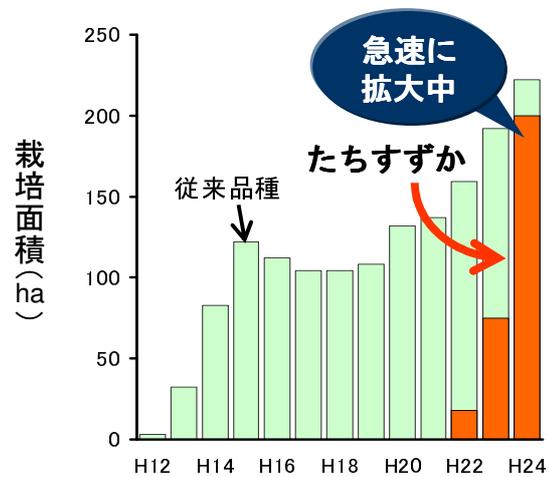


図2 飼料イネ栽培面積の推移(広島県)

研究成果の活用状況

- ◆ 成果移転のための研修会や広報活動により、普及開始から僅か2年で「たちすずか」の栽培面積は県内の全飼料イネ栽培面積の90%を占め、200haとなりました。(図2)。さらに拡大が計画されています。
- ◆ 「たちすずか」を本格給与している酪農家では、年間乳量が870ℓ/頭向上するなど経営の改善に寄与しています。
- ◆ 農業技術センターでは「たちすずか」の安定栽培技術を確立し、両センターが連携して技術開発に取り組みました。

問い合わせ先 | 畜産技術センター 技術支援部 | TEL 0824-74-0331